

News Letter No. 5



2021年11月 発行

持続皮下投与・PCAポンプについて

〔持続皮下注射の長所〕

- ・血管の確保が不要（何度も穿刺する必要がない）
- ・経口困難な患者に投与可能
- ・確実に薬剤が体内に入り持続的効果が得られる
- ・過量投与が起りにくい
- ・静脈注射よりは感染が起りにくい
- ・症状・副作用に応じて用量調整ができる

〔持続皮下注射の短所〕

- ・大用量、高用量には不適合場合がある（オキシドンなど）
- ・長期安定性が維持できない薬剤は不向き
- ・低アルブミン血症などで薬剤吸収が安定しない可能性がある

〔注意点〕

- ・刺入部発赤、腫脹、硬結など皮膚症状の観察が必要
- ・注入量は1ml/hrが限界
それ以下になるように希釈を調整する必要がある

〔挿入部位〕

- ・前胸部、上腕部、腹部、大腿部など動きに影響が少ない部位

〔PCAポンプとは〕

PCA : patient controlled analgesia「自己調節鎮痛法」
疼痛緩和用途において、患者が痛みを感じたときに、患者が自らポンプを操作し設定された追加投与（レスキュードーズ）する機能

- ・持続皮下投与、持続静脈投与で使用可能
- ・医療用麻薬での鎮痛法に使用されることが多い
- ・1時間当りの流速が0.05ml/hrで少量から調整可能
- ・PCAボタンを押すと設定量のレスキューが投与できる
- ・患者が自分でレスキューを押せるため迅速に痛みに対応できる
- ・不応期（ロックタイム）設定ができるため過量投与が防げる
- ・小型で軽量のため持ち歩きが便利

〔当センターのPCAポンプ〕 〔在宅でよく使用するPCAポンプ〕



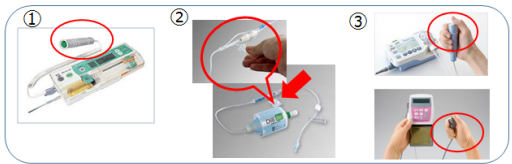
がん患者の疼痛コントロールでは、オピオイドの持続皮下（または持続静脈）投与を行なう事があります。そのまま在宅療養へ移行する場合、在宅医はPCAポンプを使用して薬剤管理をします。

スムーズな連携のため、退院時当センターのPCAポンプに切り替えて退院するケースも増えています。（在宅到着後からは在宅医のPCAポンプに切り替えて、当センターのポンプは返却してもらいます）

安全にPCAポンプの使用、オピオイド管理ができるよう、PCAポンプで退院する場合には、退院時に患者、家族に以下の説明用紙をお渡しすることになりました。

〔ライブラリ→緩和ケアのフォルダ内〕

痛み止めのポンプを使用して退院される患者さんへ



- ・入院中に使用していた痛み止め（医療用麻薬）が入っています
 - ・痛みや息苦しさがある時は、**ボタン**（＝レスキュー）を押してください
 - ・一度ボタンを押すと、安全のため一定時間薬剤は入りません（間違ってもボタンを押してもレスキューは投与されません。）
 - ・機械本体の設定変更や操作はしないでください
 - ・移動中にアラームが鳴ったり、何かあれば下記までご連絡ください（ご自宅到着後は在宅医療者の指示にしたがってください）
 - ・ご自宅では、在宅医が準備した別のポンプに切り替えます
 - ・当院からつけていた機械（①・③）は、当院へご返却ください
 - ・*②は当院への返却は不要です。
- ！）中に入っている薬剤や容器は在宅医療者が回収しますので、取り出したり触れたりせず、そのままお渡しください

<連絡先>
東京医科大学八王子医療センター 代表) 0426-665-5611
退院された病棟をお伝えください

<機械の返却先>
総合相談・支援センター（1階レストラン前）

東京医科大学八王子医療センター 緩和ケアチーム

当センターはPCAポンプは1台ずつ（TELモ・スミスメディカル）しかないの、使用する場合は緩和ケアチームにご相談ください。

各部署勉強会いつでも行ないます。緩和ケアチームまでご連絡ください